

第10回教育委員会協議会 次第

1 開催日時 平成30年3月28日(水) 18:00~20:00

2 場 所 高知共済会館 3階「桜」

3 内 容
17:30~ 受 付

18:00~ 開 会

議 題

1 学科別の教育課程(教育内容・コース)について

2 地域別の県立中学校・高等学校の在り方の方向性について
ア 中部地域②

イ 高吾地域

ウ 幡多地域

閉 会

学科別の教育課程(教育内容・コースなど)について

学科	1 年生	2 年生	3 年生	備考 (現状・課題など)
普通科 (分校)	共通科目履修	コース I 進学 (4 年制大学: 国公立・私立) コース II 進学・就職 (専門学校・就職)		<ul style="list-style-type: none"> ○生徒数・教員数が少なく、選択科目が限られている。 ○補習、添削やインターネットツール等を活用し、生徒数が少ないメリットを生かし、<u>個々の生徒の進学希望に合った学習指導</u>を通して、受験対策を行っている。 ○農業や家庭科に関する科目が選択でき、就職等につなげている。
普通科 (小規模校)	共通科目履修	コース I 進学 (4 年制大学: 国公立・私立) コース II 進学・就職 (短期大学・専門学校等・就職) コース III 進学・就職 (短期大学・専門学校等・就職)		<ul style="list-style-type: none"> ○理科や地理歴史については、2 科目程度は選択科目を開講できるが、それ以上の多様な科目の開講は、規模の関係から限られてしまう。 ○進学コース内の生徒の進学希望先が多様であるため <u>補習、添削やインターネットツール等を活用した学習とともに、個別指導</u>も含め、受験対策を行っている。 ○地域の実態等に応じて、特色を持ったコースを設定。 ※城山 (福祉・生活情報)、嶺北・窪川 (農業・商業) など
普通科 (中規模校)	共通科目履修	コース I 進学文系 (4 年生大学: 国公立・私立) コース II 進学理系 (4 年制大学: 国公立・私立) コース III 進学・就職 (短期大学・専門学校等・就職)		<ul style="list-style-type: none"> ○文系・理系別のコースは設置しているが、国公立・私立別のコース設置までは、規模の関係からできていない。 ○国公立大学への進学については、日常の授業をベースにしながら、更に <u>補習や面接指導等を充実</u>させている。なお、推薦入試合格者の割合が非常に高い。 ○進学希望者に対して、大学進学を目標とし、その気持ちを 3 年次まで継続させていくための <u>生徒への意識付けが課題</u>となっている。 ○芸術・体育・家庭科等の選択科目を開講している。
普通科 (大規模校)	共通科目履修	コース I 進学文系 (クラスで国公立・私立・専門学校に分類) コース II 進学理系 (クラスで国公立・私立に分類)		<ul style="list-style-type: none"> ○多様な入試に対応できる多様な科目選択が可能。 ○国公立大学・私立大学については、進学者を多く出しているが、推薦入試合格者の割合が一般入試合格者の割合に比べて高い。 ○更に合格者を増やしていくためには、<u>一般入試に対応できる学力を付けることが課題</u>となっている。
総合学科	産業社会と人間 共通科目履修	系列 I 進学 (4 年制大学) 系列 II 情報・商業 系列 III 福祉 系列 IV 生活教養 (被服や保育等) 系列 V 専門学科系 (農業や工業等)		<ul style="list-style-type: none"> ○系列の内容としては、一つは進学対応、その他は、多様な進路希望に対応する系列を、地域のニーズや学校の特色に応じて設置している。 ※高知東高校・宿毛高校 (5 系列) 室戸高校・春野高校 (4 系列) ○系列別に決められた科目 (<u>ユニット</u>) を選択。 ○系列に関係なく「<u>自由選択科目群</u>」と呼ばれる選択科目から科目を選択。 ○進路を考えたうえでの系列や科目の選択が十分でない現状があることから、生徒が自らの進路や適性をしっかりと考える科目である「<u>産業社会と人間</u>」の在り方や内容を充実させることが課題となっている。 <p>「産業社会と人間」と専門教科・科目をあわせた単位数は 25 単位以上</p>
専門学科 (記載例: 農業)	農業 畜産 林業 食品 園芸 普通教科の共通科目履修 専門学科別の科目履修	進学 (専門学科の科目はできるだけ少なくし、進学対応の普通教科の科目を多く履修) 就職 (普通教科の科目は必要最小限にし、より多く専門学科の科目を履修)		<ul style="list-style-type: none"> ○進学コースは、希望者が少ないため、他の学科と合同で普通教科の <u>入試科目の授業を実施</u>している。 ○進学希望者には受験対策として、補習や個別指導等を行っている。 ○就職希望者には専門科目の実習に加え、技能習得や資格取得の取組の補習を徹底的に行っている。 ○進学希望者に対して、専門科目の学習や実習のうえに <u>普通科の入試科目の学習をどう充実させるのか</u>が課題となっている。 <p>他の専門学科の高校でも、2 年次から進路希望に応じてコースを分けている。</p> <p>専門教科・科目の単位数は 25 単位以上</p>

地域別の県立中学校・高等学校の在り方の方向性について

ア 中部地域

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
1	伊野商業高校	<ul style="list-style-type: none"> 商業教育の拠点校として商業教育の充実を図るとともに、地域と連携した体験を通して働く意欲と能力を高める。 全日制単位制の特色を生かして、多様なニーズをもつ生徒への支援や資格取得の取組等を通じて教育活動の充実に努める 	<ul style="list-style-type: none"> 高大連携を推進し、日々の学びを活かして、地域と連携した行事や活動に積極的に取り組んでいる。 「いの町活性化」をテーマに「仁淀ブルーProject」と題した課題研究を実施している。これまでに、いの町の観光地や地場産品のPR方法の提案等に取り組んでおり、2・3年次の最後には、いの庁舎で発表での発表会を開催し、毎年、100人ほどのいの町民が参加している。 高知城のガイドや志国幕末高知維新号のトロッコ列車にガイドとして乗車したり、高知港に到着する豪華客船の外国人観光客へのガイド等を行っている。 年間100社を超える企業と連携したキャリア教育を、毎年継続して実施しており、2年次には4日間のインターンシップを全員が実施している。 2年次からは、生徒自身の希望に応じて4コース8プランから自分の学びを選択できるカリキュラムを設けている。(ビジネスコース：オフィス・ビジネスマナー、ツーリズムコース：コミュニケーション・ホスピタリティ、ICTコース：スペシャリスト・情報ビジネス、デザインコース：CG・映像) 	<p>(学科・教育内容)</p> <p>○伊野商業高等学校については、RESAS（リーサス：地域経済分析システム）を活用した地域活性化に対する提案や、枝川公園のイルミネーション、まちの風景をデザインしたカレンダーの作成等、あらゆる場で、町と連携した活動を行っている。高校生の若い力に触れ、刺激を受け、活性化に向けて一丸となって努力しなければならない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 商業教育の拠点校として、商業教育の充実を図るとともに、全日制単位制の特色を生かして、多様なニーズをもつ生徒への支援や資格取得の取組等を通じて教育活動の充実に努める。 地元の大学や企業と連携したり、地域の課題を発見し、その解決策を検討する取組やインターンシップなどを通じて、キャリア教育を推進し、働く意欲と能力を高める。 基礎学力の定着と専門力の育成を図り、国公立大学進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。 地域の課題を発見し、その解決策を検討する取組をさらに充実させる。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
2	春野高校	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着を進めるとともに、総合学科の特徴である、系列による多様な進路希望に対応できるカリキュラムを生かした進路指導により、教育活動の充実を図る。 これまで培ってきた農業教育を教育活動全般に生かしながら、地域と関わりの深い園芸、家庭科を活用した取組を行い、近隣小中学校との連携を含め地域との交流を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科の特性を生かし、4系列（人文、食農、園芸、生活クリエイト）を設けており、多様な進路希望に対応している。 1年次生は、国語・数学・英語において習熟度別による少人数授業を実施し、確認テストによる検証も行いながら、基礎学力の定着に努めている。なお、国語・数学・英語については、進学対応も含め、希望者には個別支援も実施している。 2年次生全員が3日間インターンシップを実施し、職業観の育成、社会人基礎力の向上に取り組んでいる。 3年次生は、3年間継続した学習生活記録シートの作成により、面談や引継ぎ資料、進路選択等に役立てている。 全学年年度当初に保護者・生徒・正副担任による三者面談を行い、個別の支援体制を強化している。 全学年キャリアノートの活用により、スケジュール管理と家庭学習時間の定着を推進している。 農業教育で培った取組を教育活動全般に生かしながら、「産業社会と人間」（1年次）と「総合的な学習の時間（なすプロジェクト）」（2・3年次）を通して、春野町を探究学習のフィールドとし、地域社会に貢献する人材の育成に努めている。 		<ul style="list-style-type: none"> 総合学科の特性を活かした、実践的・体験的な学習を通して、これからの社会を生き抜くために必要な基礎学力の定着と自己管理能力を育成し、高知県を支える人材の育成を図る。 総合学科の内容、特にメリットを保護者や中学校に理解してもらうように広報を練り直し実施していく。 総合学科の特徴である、系列によるカリキュラムを生かした指導を充実させ、多様な進路希望に対応する。 これまで培ってきた農業教育をはじめ各系列の特色を生かした取り組みにより、各事業所、施設、保育園等との連携を図る。

4	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
	高知海洋高校	<ul style="list-style-type: none"> 水産高校ならではの恵まれた施設や環境、土佐海援丸を有効に活用するとともに、地域の産業界と連携した体験型学習や地域産業の担い手育成のための資格取得の取組を充実させることで、豊かな人間性を育てる取組を推進するなど、教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 小中学校との連携を図り、児童生徒が水産分野に興味・関心をもつような取組を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品・航海・機関のコース別のインターンシップや土佐海援丸の航海実習などを通じて、「できることが実感できる授業づくり」を推進し、職業観や勤労観の育成に努めている。なお、実習科目以外の授業においても「できることが実感できる授業づくり」に努めている。 普通教科の学習面では、学習支援員による支援や放課後ノートの活用により、基礎学力の定着に努めている。また、進学面では、「進学同好会」を部活動として組織し、家庭学習を促す指導やプリント教材の提示、添削指導等を行っている。 食品コースでは、食文化の伝承や地域産業の担い手育成につながる実習を行っている。(H29年1月：キャリア教育の推進で文部科学大臣賞受賞) 専攻科は3級・本科生は5級海技士の船舶職員養成施設、本科生も小型船舶操縦士の指定(国土交通省)を受けている。その他、食品検定をはじめ、資格取得を推進している。 入学者数(定員80人)は、平成27年度51人、平成28年度58人、平成29年度39人である。 土佐海援丸の活用については、本校の国際航海をはじめとした各学年の航海実習の他に、小学生や中学生、本校のPTAの1日体験航海、四万十高校の屋久島航海、そして、高知南中高・清水高校、今年度は高知追手前高校の生徒会の高知足摺航海などがある。また、本校の施設見学を実施し、生徒募集につなげている。 ツナガールの活躍・広報や地域の行事への参加、文化祭、魚河岸かいようでの販売実習、農業高校との産業教育フェアなどを通じて交流を推進している。(H29年2月：ツナガール高知県地場産業次世代賞受賞) 	<p>(学科・教育内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○高知海洋高校であるが、高知県唯一の水産高校で、非常に特徴がある。「ツナガール」が、県内各地で、いろんな依頼に基づいて出演をして、高知海洋高校の名前は売れている。地域との関わりでも、ツナ缶が非常に人気で、イベントで一番先に売り切れる。地域との関わりにおいては、宇佐にあるが、地元の商工会の青年部がウルメを売り出すことに呼応する形で、食品関係の高知海洋高校が関わっている。高知海洋高校は、実績も含めて、地域との関わりを持ってきている。 ○市が目指すビジョンでは、防災に対するニーズが高まっている。高知海洋高校は、地域との関わりに防災も取り入れている。 ○高知海洋高校は支援をいただき、市も一定の支援をしてきた経過がある。新たな産物、特産品開発も、加工施設などを活用いただき、アイデアもいただいて、一緒になって開発していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 食品・航海・機関のコース別インターンシップや土佐海援丸の航海実習などを通じて、職業観や勤労観の育成に努めるとともに、地域の産業界と連携した体験型学習や地域産業の担い手育成のための資格取得の取組を充実させ、併せて豊かな人間性を育てる取組を推進する 小中学校との連携を図り、児童生徒が水産分野に興味・関心をもつような取組を推進する。 基礎学力の定着と専門力の育成を図り、専攻科や国公立大学への進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。 海沿いにあり、津波による大きな被害が想定される学校であることから、地域と連携しながら、避難訓練等を実施するとともに、BCP(事業継続計画)の策定を着実に実施する。 土佐市・高知県水産振興部と連携を図り、地域資源活用の取組を推進する。

地域別の県立中学校・高等学校の在り方の方向性について

イ 高吾地域

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
5	須崎工業高校	<ul style="list-style-type: none"> 地域の工業高校として、ものづくりや資格取得の取組や地域と連携した取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 それぞれの科の特色を生かし、実習による技能の向上に努め、工業技術者の育成を図りながら、将来、本県の産業を担う人材を育成する。 須崎高校と統合することで適正規模を維持した新たな学校を設け、高吾地域における拠点校とする。統合後の学校は現地に置く。 須崎高校との統合を見据えた学科改編を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のニーズに応じる取組を継続して実施し、地域に貢献している。 ものづくりを通じた防災減災活動が評価され、平成 29 年度、文部科学大臣表彰（学校安全）を受賞している。 入学者数（入学定員：H27・28 年度は 160 人、H29 年度から 120 人）は、平成 27 年度 96 人、平成 28 年度 91 人、平成 29 年度 64 人である。 造船部は、ソーラーボートの競技大会において、スラロームでは 5 連覇、周回レースでは 4 連覇を達成している。 進路保障に努め、就職内定率 100%、進学決定率 100%を毎年、実現している。なお、就職については、過去 3 年間の平均すると県内 46%、県外 54%であり、高吾地域への就職は、就職全体の 17.5%である。 平成 31 年 4 月に須崎総合高校として開校。一期生としての卒業となる学年が平成 29 年度に入学。 これまでの伝統や強みを生かし、さらに充実した教育内容として発展させることをねらいとして、平成 29 年度から工業に関する学科を 3 科 6 専攻（機械系学科〔機械専攻・造船専攻〕、電気情報系学科〔電気専攻・電子情報専攻〕、システム工学系学科〔機械制御専攻・住環境専攻〕）に学科改編。 		<p>「須崎総合高校」は平成 31 年 4 月に開校することから、「後期実施計画」では、「須崎総合高校」で記載</p> <p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高吾地域の進学や就職、産業教育、部活動の拠点校として、充実した教育活動を展開し、その成果を地域内でも共有することで、高吾地域の牽引校となる。 普通科においては、進学拠点校として、大学進学等にも対応できる学力を保証し、国公立大学への進学を実現できる支援体制の充実を図る。 工業科においては、ものづくりや資格取得の取組、地域と連携した取組等を通じて、キャリア教育を更に推進し、就職を主とした進路希望の実現を図る。 ドラゴンカヌー等の地域おこし活動や防災教育を進め、将来の地域を支える人材を育成する。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。
6	須崎高校	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な進路希望に対応できるカリキュラムを生かして、基礎学力の定着と進路実現を可能にする取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 須崎工業高校と統合することで適正規模を維持した新たな学校を設け、高吾地域の拠点校とする。南海トラフ地震による津波への対応を踏まえて、統合後の学校は須崎工業高校の敷地に置く。 須崎工業高校との統合を見据え、総合学科から普通科に学科改編を行う。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 統合後も維持し、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域に対する防災プロジェクトチームを中心とした防災減災活動をはじめ、系統的・計画的な防災教育をキャリア教育の視点で実践している。なお、こうした取組が評価され、平成 28 年度、内閣総理大臣表彰（安全功労者）を受賞している。 進路については、過去 3 年間の平均は、進学が 8 割強（半数が 4 年制大学）、就職が 2 割弱（内 7 割が県内、3 割が県外）である。なお、国公立大学への進学者は、H26 年度 11 人、H27 年度 7 人、H28 年度 9 人である。 入学者数（入学定員 120 人）は、平成 27 年度 64 人、平成 28 年度 97 人、平成 29 年度 92 人である。 平成 31 年 4 月に須崎総合高校として開校。一期生としての卒業となる学年が平成 29 年度に入学。 1 年生から大学進学クラスを設け、3 年間のロードマップ（指針）に基づいた大学進学に向けた学力向上のための系統的な学習を実践している。 平成 29 年度からカヌー一部が運動部活動の強化推進校 B に指定されている。 学習指導の充実により、さらに大学進学等の進路実現につながる教育内容とすることをねらいとして、平成 29 年度に総合学科から普通科（2 年次からコース制〔文理・教養〕）へ学科改編。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により 3 年間で卒業できる制度（三修制）を導入している。 平成 31 年 4 月に須崎総合高校として開校。 在籍生徒数（在籍定員 160 人）は、H27 年度 25 人、H28 年度 23 人、H29 年度 17 人である。 	<p>（学科・教育内容）</p> <p>○現須崎高校 PTA から「普通科」を「大学進学としての拠点」としてもらおうよう要望あり。（平成 29 年 12 月）</p> <p>※具体としては、「進学拠点としての指定」「それに応じた教育内容や施策の実施」「多様な生徒に対してきめ細かい支援ができる教員数の確保」</p>	

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
7	佐川高校	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域や中学校との連携を強化するとともに、基礎学力の定着や社会性の育成を図り、多様なニーズをもつ生徒へのきめ細かい支援の取組等を通じて生徒の進路を保障する。これらの取組を通じて、生徒数の確保に努める。 過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校であり、特例として1学年1学級（20人以上）を最低規模として維持する。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定時制については、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「いのち輝けさくら咲くプロジェクト」と名付けた地域課題解決学習を系統的・計画的に実施している。 平成 29 年度からは、佐川高等学校協働本部を設置し、学習内容の改善、発展に努めている。 「佐高検定チャレンジ支援制度」によって、検定試験の費用支援を実施している。 「佐高ボランティアバンク」において、生徒の地域での活動を促進している。 平成 29 年度からソフトボール部が運動部活動の強化推進校 B に指定されている。 上位層への補習や学習支援員制度などを活用した下位層への個別支援の取組を充実させている。 進路については、過去 3 年間の平均は、進学が約 7 割（内 2 割が 4 年制大学）、就職が 3 割（内 7 割が県内、3 割が県外）である。なお、国公立大学への進学者は、H26 年度 4 人、H27 年度 2 人、H28 年度 1 人である。 入学者数（入学定員 80 人）は、平成 27 年度 52 人、平成 28 年度 47 人、平成 29 年度 35 人である。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により 3 年間で卒業できる制度（三修制）を導入している。 加力補習が必要な生徒には、1 時間早く登校させ、補習を実施している。 在籍生徒数（在籍定員 160 人）は、H27 年度 25 人、H28 年度 21 人、H29 年度 22 人である。 	<p>【全日制】（現状等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育における主要施策の一つとして、「魅力ある佐川高校づくり」の支援を掲げ、地域と行政が積極的に支援する体制づくりを進めていこうとしている。 ○農業、林業の振興による担い手確保を掲げ、「ふるさと教育」の推進を位置付けている。平成 30 年度から佐川町としても教育研究所を立ち上げ、「ふるさと教育」に、より一層力を入れる予定。 ○佐川高校に対して望む学校像、育ててほしい生徒像として、1 次産業である農業や林業の仕事に夢や希望もてる、誇りもてる人間を育ててほしい。 ○佐川高校が行きたい学校になるために中学生が求めていることは、「大学への進学や就職の保障」「独自性のある取組」「学校の魅力の発信」である。特に、国公立大学への進学者の増加。 ○佐川町は JR があり、以前から高知市内等へ抜ける生徒も多い。平成 29 年度の佐川町内の中学校卒業生 109 名中、佐川高校へは 16 名（15%）が進学した。高知追手前高校・高知小津高校・高知西高校には計 25 名、私立高校には 10 名、工業等の実業系へは 29 名が進学した。なお、10 年前の佐川高校への進学率は 30%。 ○地元の高校への進学率が低い原因は、高知学区の廃止の影響も少なからずある。 <p>【定時制】（現状）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○佐川高校定時制は、不登校の生徒の受け皿として重要な学校である。近年 3 名～5 名進学している。 <p>（振興策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○佐川高校の魅力化のひとつの視点に、部活動がある。佐川高校ではソフトボールとサッカーに期待している。 ○佐川高校では、地域を活性化させる生徒の育成を望んでいる。小中高と地域学習を行って、地域に残る人材を育成してほしい。 ○佐川高校の学習で 4 町村の実態を学んでもらっている。地域協働本部に 5 人の教育長が参画し、協力も行っている。 ○検定試験の費用の負担として、全日制と定時制にそれぞれ 35 万円を 4 町村からの生徒数で按分して支援している。いろいろな活動に利用してもらっている。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の多様な生徒の実態を踏まえて、生徒一人ひとりの夢の実現を目指し、高い志を持ち創造的で豊かな人間性と地域社会に貢献できる逞しさを備えた人材を育成する。 生徒の基礎学力の定着・向上に取り組むとともに、国公立大学への進学を希望する生徒の期待に応える進学指導や、生徒が希望する就職を叶える進路指導ができる高等学校として高知地域の中で存在感を示す。こうした取組を通じて、生徒数の確保に努める。 ふるさと教育から地域課題学習を一層推進して地域を担う人材の育成に努める。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の高等学校取得のセーフティーネットの役割を果たすとともに、個性と人権を尊重しつつ社会人として「生きる力」を持った健全な人材の育成に努める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔中山間地域にある学校に共通する方向性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT の活用により難関校への進学希望にも対応できる学習環境、社会性の育成の確保が必要。 市町村との連携により地元中学生からの進学率を更に向上させることが必要。 今後、更に魅力ある振興策を検討し、特色ある学校づくりを行い、域外の生徒を確保することが必要。 </div>

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
8	窪川高校	<ul style="list-style-type: none"> 地域や中学校との連携を強化するとともに、コース制によるきめ細かい指導など、多様なニーズをもつ生徒への支援体制を強化する取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校であり、特例として1学年1学級（20人以上）を最低規模として維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> 高校生が地域のイベント等に参画する場づくりや中学校との部活動交流を積極的に取り組んでいる。 毎年、四万十町長・教育長・行政関係者との意見交換会を高校2年生が実施している。 地域行政と連携して地域の教育文化水準を高めるように努めている。 平成 28 年度から四万十町が公設町営塾を開設し、学校内でのインターネット学習教材を活用した取組と併せて、基礎学力の定着と学力向上の取組を推進している。 2年次から2つのコースを設け、大学進学コースでは、年間を通じた進学補習や個別指導等の実施や関西研修（大学訪問）等を通して、進学する意識と学力の向上に努めている。地域リーダー養成コースは希望者も多く、産業に関する科目（農業・商業・家庭）を関連付けながら学び、それぞれの特性を生かした実習や地域課題研究等を通じて、将来地域社会で活躍できる人材育成のためのプログラム開発と、資質・能力の育成に努めている。 文部科学省の「遠隔教育」の指定を受け、同一町内の四万十高等学校と遠隔教育を実践し、専門科目の講座開講を推進している。 進路については、過去3年間の平均は、進学が7割（内半数が4年制大学）、就職が3割（内7割が県内、3割が県外）であり、なお、年々、進学の割合が高くなっている。また、国公立大学への進学者は、H26 年度3人、H27 年度3人、H28 年度1人である。 入学者数（定員 80 人）は、平成 27 年度 34 人、平成 28 年度 41 人、平成 29 年度 26 人である。 	<p>（学校の存続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今後の地域を支え、発展させていく魅力ある人材の確保と育成を最重要課題として移住定住政策とも連動した取組を進めている。 ○地域の教育力は移住定住にも大きな影響力をもち、幼保小中高が連携して、誰もが学べる魅力ある教育環境づくりを進めることで、優しい教育の町としてのブランド化を目指している。このためにも県立高校の存在は大きな影響力があり、将来の進路や生き方に影響を与える。 ○入学者の減少が続いているが、高校の教育活動は地域の活力そのものであり、存続は四万十町の課題である。 ○四万十高校、窪川高校には特色ある少人数教育の活動を通して、地域の活性化にも寄与でき、地域に愛される、また、期待される学校づくりを進めてもらいたい。 ○中山間地域の公立高校では、少子化の進展により、大きな定員割れが続いているが、公共交通インフラが進んでいない過疎地域では、保護者負担が年々増加傾向にある。本町でも地元高校に通う生徒の時間的、経済的な負担軽減を初め、高校と地域とのさらなる連携を深め、持続可能な町づくりと魅力ある高校づくりを具体的に進めている。育つ環境で教育格差が生じないよう、また、知識を問う学力ではなく個々の能力が伸ばせ、将来社会で活躍するために必要な力を育むことができる中山間地域の学びの場の確保をお願いしつつ、県全体のより良い再編振興計画後期実施計画になることを望む。 ○地元からの進学者を 50%以上確保していきたい。 <p>（支援策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○通学支援、部活動・校外研修の移動経費の負担軽減として支援を行っている。また、放課後の学びの場として、町営塾（窪川・大正の2会場それぞれ週5日）を開塾した。補習や総合的な学習の時間への支援、大学へのキャンパスツアーも実施している。「高校魅力化コーディネーター」という位置付けで、窪川高校に職員を2名、嘱託職員という形になるか調整中だが考えている。現在、通学助成を町内の保護者には上限 3,000 円の交通費の助成を行っているが、来年度は町外の生徒にも拡充しようと考えている。 ○小中高の連携として、窪川高校では、お茶つみや科学実験を行っている。 ○生徒の確保には、四万十高校、窪川高校には、特色ある学校づくりに取り組んでもらいたい。さらに部活動も振興してもらい、高知市にない地域の学校らしい学校づくりに取り組んでもらいたい。 	<ul style="list-style-type: none"> コース制によるきめ細かい指導など、多様なニーズをもつ生徒への支援体制を強化する取組等を通じて、授業を大切にすることを醸成し、教育活動の充実を図る。 地域や中学校との連携、県内外の大学との協働を通じて、地域の普通科高校としての魅力ある取組を継続して行う。 町営塾の活用や遠隔授業の実施により、教育機会の確保や多様かつ高度な教育に触れる機会を提供する。また、地域リーダー養成コースを中心に、地域に根ざした学校としての活性化を図る 地域の生徒数の減少が見込まれる中で、四万十町にある県立高等学校2校の振興をどのように考えるか検討が必要。 <div data-bbox="2249 743 2858 1115" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〔中山間地域にある学校に共通する方向性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用により難関校への進学希望にも対応できる学習環境、社会性の育成の確保が必要。 市町村との連携により地元中学生からの進学率を更に向上させることが必要。 今後、更に魅力ある振興策を検討し、特色ある学校づくりを行い、域外の生徒を確保することが必要。 </div>

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
9	橋原高校	<ul style="list-style-type: none"> ・連携型中高一貫教育を継続するとともに、伝統芸能の継承の取組等の地域との連携や多様なニーズをもつ生徒への支援体制を強化する取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 ・過疎化が著しく、近隣に他の高校がない学校であり、特例として1学年1学級（20人以上）を最低規模として維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・橋原中学校との連携型中高一貫教育を推進しており、中学校との授業連携はもちろん、中高一貫合同会議等を開催し、交流を深めている。 ・橋原で学び生活していくことをテーマとした「YELL プロジェクト」による地域との連携や、津野山神楽の継承・実践などを行っている。 ・月1回の生徒支援委員会の開催やSCの週2日対応等により、生徒理解、初期対応に努める体制を整えている。 ・平成29年度は橋原中学校卒業生の9割が橋原高校に進学(H27年度75%、H28年度75%、H29年度89%)し、併せて部活動を目的に遠方からも10人を超える進学者が入学するなどして、40人を超える生徒を確保している。 ・野球部の活性化を通して、生徒募集に努めている。 ・平成29年度からアーチェリー部が運動部活動の強化推進校Bに指定されている。なお、アーチェリー部は、毎年、団体等がインターハイ（全国大会）に出場している。 ・習熟度別学習による学力の定着・向上に努めている。 ・進学補習や学習支援員等による個別支援を充実させ、大学進学に向けた指導体制を整えている。 ・国公立大学への進学者は、H26年度2人、H27年度3人、H28年度2人である。 ・入学者数（定員80人）は、平成27年度56人、平成28年度32人、平成29年度43人である。 		<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒一人一人の夢の実現を目指し、個性を尊重しつつ社会人として真の学力・生きる力を持った真の橋原人の育成」のため、地域と一体となった取り組みを行う。 ・キャリア教育を推進し、地域の社会資源を活用しながら、将来の自分の進路や仕事について考え進路実現を図る。 ・小規模校の最大の利点である少人数を生かした授業を核に各種の補習、添削、面談等のきめ細かな指導を行い、進路の実現を確実なものにする。 ・生徒数の確保に合わせて、寮の整備も検討する必要がある。 ・地域と連携して部活動を通しての魅力化も図り、特に、中学校との連携による活動を推進する。 ・体育系では野球、アーチェリー、バスケットボール等、文化系では津野山神楽や家庭クラブ等の特色ある部活動を中心に成果を出す。 ・平成30年度より新たに3年間の遠隔教育の調査研究校に指定されるよう申請中。 <div data-bbox="2234 905 2852 1278" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔中山間地域にある学校に共通する方向性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用により難関校への進学希望にも対応できる学習環境、社会性の育成の確保が必要。 ・市町村との連携により地元中学生からの進学率を更に向上させることが必要。 ・今後、更に魅力ある振興策を検討し、特色ある学校づくりを行い、域外の生徒を確保することが必要。 </div>

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
10	四万十高校	<ul style="list-style-type: none"> ・連携型中高一貫教育を継続するとともに、自然環境学習や多様なニーズをもつ生徒への支援体制を強化する取組、地域と連携した生徒育成の取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 ・過疎化が著しく、近隣に他の高校がない学校であり、特例として1学年1学級（20人以上）を最低規模として維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大正・北ノ川・十川中学校との連携型中高一貫教育を推進し、中高の授業交流や「ふるさと学習発表会」を行っている。 ・四万十町の支援を得て、ソフトボールの専門的指導者を招聘し、中学校との定期的な合同練習、小・中学校を対象としたソフトボール教室を実施している。 ・小・中学校PTAと高校PTA・同窓会との懇談会）や地域おこし協力隊と連携した取組を実施している。 ・自然環境コースでは、研究機関や森林組合と連携して、フィールドワークや林業体験実習を実施している。 ・スケジュール手帳を活用した学習計画づくり等に取り組んでおり、公設町営塾は、この学習計画を同級生と共に行動に移す場として役立っている。また、インターネット学習教材を活用した取組や、1・2学年では毎日終SH等で学び直し学習等を行い、学力向上につなげている。 ・毎月の生徒支援会や高大連携教育事業による研修会等を行い、開発的・予防的な生徒支援を実施している。 ・文部科学省の「遠隔教育」の指定を受け、同一町内の窪川高等学校と遠隔教育を実践し、専門科目の講座開講を推進している。 ・進路については、過去3年間の平均は、進学が5割（内半数が4年制大学）、就職が5割（内7割強が県内、3割弱が県外）である。なお、国公立大学への進学者は、H26年度1人、H27年度0人、H28年度0人である。 ・入学者数については、普通科（定員40人）は、平成27年度13人、平成28年度13人、平成29年度9人。普通科自然環境コース（定員40人）は、平成27年度7人、平成28年度7人、平成29年度4人。である。 	<p>（学校の存続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○今後の地域を支え、発展させていく魅力ある人材の確保と育成を最重要課題として移住定住政策とも連動した取組を進めている。 ○地域の教育力は移住定住にも大きな影響力をもち、幼保小中高が連携して、誰もが学べる魅力ある教育環境づくりを進めることで、優しい教育の町としてのブランド化を目指している。このためにも県立高校の存在は大きな影響力があり、将来の進路や生き方に影響を与える。 ○中山間地域の生徒は高知市内校へのあこがれで進路を決めてしまう傾向が強い。中山間地域の高校への入学生徒の減少は、高知市内校だけでほとんどの生徒を入学できる定員を設けていることにあるのではないかと。 ○入学者の減少が続いているが、高校の教育活動は地域の活力そのものであり、存続は四万十町の課題である。 ○四万十高校、窪川高校には特色ある少人数教育の活動を通して、地域の活性化にも寄与でき、地域に愛される、また、期待される学校づくりを進めてもらいたい。 ○中山間地域の公立高校では、少子化の進展により、大きな定員割れが続いているが、公共交通インフラが進んでいない過疎地域では、保護者負担が年々増加傾向にある。 ○地元からの進学者を50%以上確保していきたい。 <p>（振興策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○町として町内2高校への通学助成を行うとともに、四万十高校には部活動・校外学習に必要な管理自動車の経費、寮の運営費の一部補助など保護者負担の軽減策を行っている。また、放課後の学びの場として、町営塾（窪川・大正の2会場それぞれ週5日）を開塾した。 ○大正・十和の山間地域では、さらに30分、40分と時間がかかる集落があり、そういったところから通学している生徒がいる。 ○小中高の連携では町補助金によるソフトボールでの連携が進んでいる。また、大正地域では今後ジャズ分野で連携していくことに関心が高い。 ○大正地域では、現在ジャズが盛り上がり、中学校での音楽部の活動や地域の会場を活用した町民のイベントも行っている。四万十高校へは音楽を通じた交流振興等も図っていきたい。 ○生徒の確保には、四万十高校、窪川高校には、特色ある学校づくりに取り組んでもらいたい。 ○四万十高校について、林業や造形の声もある。また、寮への更なる助成の在り方、ソフトボールを中心とした部活動の振興、音楽活動など、地域の協力も得ながら活性化させたいと考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携型中高一貫教育を継続するとともに、小・中学校PTAなど地域とともに生徒育成の取組等を通じて教育活動の充実を図り、生涯を通して学び・働き、地域の伝統文化の担い手となる生徒の育成を図る。 ・森林組合や農業関連事業者へのインターンシップや地域との連携を通して、農業・林業技術者や地域産品の加工・販売業など地域の産業への関心を深め、就職につなげる。 ・町営塾の活用や遠隔授業の実施、教育機会の確保や多様かつ高度な教育に触れる機会を提供する。また、ソフトボールを中心とした部活動の振興や、音楽を通じた活性化に取り組む。 ・地域の生徒数の減少が見込まれる中で、四万十町にある県立高等学校2校の振興をどのように考えるか検討が必要。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔中山間地域にある学校に共通する方向性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用により難関校への進学希望にも対応できる学習環境、社会性の育成の確保が必要。 ・市町村との連携により地元中学生からの進学率を更に向上させることが必要。 ・今後、更に魅力ある振興策を検討し、特色ある学校づくりを行い、域外の生徒を確保することが必要。 </div>

地域別の県立中学校・高等学校の在り方の方向性について

ウ 幡多地域

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
11	大方高校	<p>【昼間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育課程や教育方法の改善による基礎学力の定着と進路実現を可能にする取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 生徒の実態等を考慮し、単位制を生かしながらより効果的な教育を行うため、平成 29 年度より昼間部を全日制に改編する。 不登校経験や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整えた学校であり、特例として 1 学年 1 学級 (20 人以上) を最低規模として維持する。 <p>【夜間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 <p>【通信制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 通信制については、多様な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、生徒の学習ペースに応じた学習を支援するとともに、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内の高等学校で唯一のコミュニティスクールであり、学校運営協議会を通じて地域連携を進めている。 平成 28 年度の「世界津波サミット」への参加を契機として、本年度は生徒の防災委員を募集し、保小中高の連携による避難訓練など、地域貢献を視野に入れた防災教育に取り組んでいる。 様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援を行うことを目的に、教育課程や進級等に関して柔軟な対応ができるよう、これまでの単位制での強みを生かしながら、さらに発展・充実できるように、平成 29 年度から定時制昼間部を全日制の単位制に改編した。具体的な取組としては、本年度から基礎学力の定着と学力向上を目指して、1 年生全員を対象とした放課後加力補習を実施している。 学校設定科目の中に地域に貢献できる人材を育成することを目的とした課題解決学習である「地域学」や、社会性を育成するための活動を実施する「ソピア」を位置付けるなど、学校改革に取り組んでいる。 多様な生徒が入学しているため支援体制の充実を図り、早期の情報共有により課題の解決につなげている。 入学者数 (定員 80 人) は、平成 27 年度 38 人、平成 28 年度 32 人、平成 29 年度 32 人である。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により 3 年間で卒業できる制度 (三修制) を導入している。 様々な理由により、全日制から定時制に転学する生徒の学び直しの場としての役割や、全日制高校に合格できなかった生徒の学習をしたいという学びの場としての役割も果たしている。 進路保障に向けて、若者サポートステーションと連携し、社会人に向けての講話やスキル獲得のための活動等を実施している。 生徒会を中心とした行事を計画し、生徒間の親睦を図るなど学校生活の充実を努めている。 在籍生徒数は、H27 年度 28 人、H28 年度 26 人、H29 年度 21 人である。 <p>【通信制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な理由から全日制高校で学ぶことができない生徒や、社会人として学び直しをしたいという生徒たちを受け入れている幡多地域で唯一の通信制課程である。また、中途退学をした生徒や子育て中の生徒を受け入れ、一人一人の生徒が目指す進路の実現に向けた教育活動に取り組んでいる。 生徒会を中心として様々な行事に取り組み、生徒間の親睦と関係性の構築に努めている。 進路保障の実現のために、就職希望者の支援のために若者サポートステーションを活用するとともに、職場体験等を実施している。また、進学希望者に対しては平日の進学補習を実施してサポートしている。 	<p>【全日制】 (学科・教育内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 町としては、「ふるさとキャリア教育」による学びを通じて、どこに住んでいようとも幸せを感じてもらえる人材の育成を目指している。 大方高校の取組は、地域の高い評価を得ている。また、学校運営については、配慮を要する生徒への支援体制を含め、保護者の高い評価を得ている。 幡多地域において、大方高校は、配慮を要する生徒の支援が充実していると考えられる。 大方高校の生徒には、どんどん地域に入ってきてもらいたい。地域に入ってくることで評価が得られ、自己有用感に結び付いていく。そういう活動が体系化され、情報発信していくことで、生徒が集まってくると思う。 大方高校は、四万十市内の小中学生には、家庭的養育的に恵まれない子供、何らかの原因で不登校や適応障害を起こし、十分に義務教育を履修できていない生徒、学力や生活態度に課題のある生徒、発達障害等特別に支援の必要な生徒が増加傾向にある。そんな現状の中、大方高校は幡多地区及び近隣の生徒にとっても保護者にとっても、ありがたい存在感のある学校である。 <p>(振興策)</p> <ul style="list-style-type: none"> 開校当初から今日まで、一貫して自律創造型地域課題解決学習の取組を推進しており全国のモデル校として継続している。地域が参画して学校を運営している学校運営協議会への積極的な協力や参画のたまものであり、黒潮町のふるさとキャリア教育を推進するうえで必要不可欠な存在である。大方高校をしっかりと位置付け、これまで以上に人材派遣を主軸に積極的にコミットしていきたい。 津波サミットの成功は、大方高校がポスト校であったことが大きい。 黒潮町の中学生が進学する高校を選択する理由として、近年では、クラブ活動も一つの要因として重要視されている。 <p>【定時制・通信制】 (学科・教育内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> 定時制・通信制もあり、リカレント教育の一環として、学ぼうとする者に過度の負担を強いることのないよう配慮し、継続していかなければならない。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援を行うために、教育課程や教育方法の改善による基礎学力の定着と進路実現を可能にする取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 コミュニティスクールとして、学校運営協議会を通じて行政機関等とも協働し、課題解決学習である「地域学」や、社会性を育成するための活動の取組を推進し、将来、地域社会で活躍できる人材を育成する。 生徒による主体的な防災委員会活動の充実、保小中高の連携による避難訓練の実施などに取り組み、地域貢献を視野に入れた防災教育を展開していく。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 若者サポートステーションと連携し、社会人に向けての講話やスキル獲得のための活動等を実施する。 <p>【通信制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、生徒の学習ペースに応じた学習を支援するとともに、進路実現を支援する。 就職希望者の支援のために若者サポートステーションを活用するとともに、職場体験等を実施する。また、進学希望者に対しては、平日の進学補習を実施する。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
12	幡多農業高校	<ul style="list-style-type: none"> 幡多地域の農業教育の拠点校としての役割を担い、地域と連携した取組を積極的に行うとともに、専門的かつ高度な知識や技能を身に付けることのできる環境を整備し、社会の変化や産業の動向に適応した次世代を担う農業関係者を育成するとともに、生徒数の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> アグリパークはたのう推進事業やアグリっ子活動支援事業などをおして、生徒が主体的に地域貢献活動や地元企業等と協働し、学校生産物を活用した新商品の開発に取り組んでいる。 多くの農業体験活動の場を設けるとともに、地域の農家や農業法人との連携を視野に入れ、次世代型農業に向けた先進技術の研究や、GAP 教育（農業生産工程管理：「よい農業の実践」を推進するための教育）の推進に向けた取組を始めている。 地域の小学生の体験学習を受け入れ、生徒が先生役を行う等、学んだことを伝えることで、深い学びを実践している。 農業関連産業を担う人材や地域リーダーの育成のため、教育課程を工夫しながら、必要とされる専門科目や学力向上につながる科目の設定などを実施している。 馬術部、陸上部及び女子ソフトテニス部は、連年にわたり優秀な成績を残すとともに、地域と一体となり熱心に取り組んでいる。また、平成 29 年度からボート部が運動部活動の強化推進校 B に指定されている。 入学者数（4 科合計定員 160 人）は、平成 27 年度 97 人、平成 28 年度 122 人、平成 29 年度 118 人である。 グリーン環境科の入学者数（定員 40 人）は、平成 27 年度 24 人、平成 28 年度 22 人、平成 29 年度 17 人である。 	<p>（学科・教育内容、振興策）</p> <p>○幡多農業高校は、40 年ほど前に比べ格段に学校の存在価値が上がっている。生徒からの魅力、地域からの評価が高まった。熱心な OB や後援会組織もうまく巻き込み、歴々とした学校改革と学校経営の改善を進めている。少人数による専門高校ならではの実習を織り交ぜた行き届いた教育と生徒指導、体験学習や出前授業を通した管内小中学校との交流、幡多農市場の開催を始めとする地域との交流を積極的に進め、開かれた学校、地域とともに歩む専門高校としてのスタンスと活動がより鮮明になった。馬術部の全国レベルの活躍や陸上競技者の育成と、生徒にとっては明るい未来、豊かな未来が開ける希望、多彩な可能性を感じる魅力ある学校になっている。四万十市及び高知県が目指す産業育成、特に農林業や園芸、人々の生活を豊かにする食品製品づくりと第一次産業から第 3 次産業、それをかけ合わせた産業の担い手を育てるべく、今の流れを大切に充実した教育活動と人材育成を展開してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 幡多地域の農業教育の拠点校としての役割を担い、地域と連携した取組を積極的に行うとともに、専門的かつ高度な知識や技能を身に付けることのできる環境を整備し、社会の変化や産業の動向に適応した次世代を担う農業関係者を育成する。 地域と連携した積極的な取組を通じて、地域産業を支える将来のスペシャリストを育成する。 学科の特色を活かしながら、多様な進路希望に対応する取組を充実する。 併せて、新しい生産技術やグローバル化による競争力、6 次産業化等に対応できる高い専門技術や教養を身に付けることができるよう、農業生産工程管理（GAP）教育や、食品製造に関する HACCP 教育の内容の充実に取り組む。 基礎学力の定着と専門力の育成を図り、国公立大学進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
13	中村高校 中村中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・幡多地域の進学拠点校として併設型中高一貫教育を推進し、生徒が希望する国公立大学や難関大学への進学を実現できる支援体制の充実等を通じて、教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 ・進学に向けた取組の成果を他の学校にも普及することで県全体の進学指導力を向上させる牽引校とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中高では、教員の相互乗り入れによる授業交流を実施している。中学校では特に、英国数は少人数授業の実施、数学・理科では高校の内容を先取りして指導しており、中高一貫教育のメリットを生かしている。 ・進学の体制として、補習や授業時間数増を行っている他に、地域との連携や部活動にも積極的に取り組ませ、自分の役割を感じ、人間力を高める取組を実施している。 ・大学進学に向けた取り組みとして、様々なテーマでの集団討論を実施している。 ・進学については、毎年、約 7 割の生徒が 4 年制大学へ進学しており、国公立大学の合格者は、H26 年度 28 人、H27 年度 22 人、H28 年度 32 人である。また、難関私立大学の過去 3 年間の合格者は、早稲田大学 1 人、明治大学 2 人、立教大学 2 人、青山学院大学 1 人、同志社大学 7 人、立命館大学 7 人、関西大学 5 人、関西学院大学 10 人である。 ・高校の入学者数（定員 200 人）は、平成 27 年度 184 人、平成 28 年度 161 人、平成 29 年度 200 人である。 ・英語は 6 年間系統的に 4 技能を育成する教育内容で実施している。さらに、中高合同の教科会の実施の他にも、研修会を実施しており、この研修会については、他校にも呼びかけ実施している。 	<p>(学科・教育内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県立中村高校には、中央部の高知追手前高校、東部の安芸高校と並んで、西部の進学拠点校として大きな期待がある。四万十市はもちろん幡多地区の志のある生徒を集め、切磋琢磨しながら単に大学入学者の数のみならず、入学する大学の質を上げ、それだけの高い学力とキャリア意識と望ましい人間性を身に付け生徒や保護者が真に希望する大学に進学する実績を上げ続けることが地域の期待であり、高知県教育委員会の期待であると思う。 ○県立中村中学校が誕生するにあたっては、単に制度的な中高一貫教育の導入と充実という期待のみならず、それまで国公立大学や難関私立大学、医学薬学系統の学部等高い学力が必要な大学に入学するためには、親元を離れて、土佐中学校・高等学校や学芸中学校・高等学校と高知市内の中高一貫の私立学校に進んでいた実態や歴史があったが、この県立中村中学校の誕生により親元から安心して進学できる地元の中高一貫校において 6 年間の中で高い学力を身に付け、その希望を確実に実現することに期待があった。しかし、その期待に十分に答えるだけの進学実績、保護者、地域からの信頼度の高い評価は届いていない。少子化を考えると入学定員を絞ることも考えられるが、西の進学拠点校としての揺るぎなく堅実なコース、カリキュラム編成等により、リーダーの育成を目指して、国公立大学及び難関私立大学への入学者を数の面でも質の面でも輩出できる、更には旧帝国大学レベルの難関国立大学にも毎年確実に入学できるだけの信頼度の高い学力形成、人間形成のできる進学拠点校としての学校力の向上と飛躍を強くお願いしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幡多地域の進学拠点校として、併設型中高一貫教育のメリットを生かした学習指導と幅広い活動により高い学力と人間性を身に付け、生徒の可能性を広げ、希望する進路を実現できるための支援を充実させる。 ・地域との連携や部活動の活性化により人間力を高める取組を実施し、地域の未来を担う人材を育成する。 ・進学拠点校としての取組を充実するとともに、県全体の進学指導力を向上させる牽引役を担う。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
14	中村高校 西土佐分校	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携や生徒一人一人に応じたきめ細かい支援体制を強化する取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 平成 27 年度を起算年として、2 年連続して入学者が 20 人に満たない状況になった場合、その翌年からの募集停止を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校経験者等への丁寧な対応として、少人数によるインターネット学習教材を活用した取組を通して生徒の学力向上に努め、進路決定率 100%を達成している。 生徒一人一人に役割ややりがいを持たせる取組として、カヌー部の活動、地域貢献としての「地域ボランティア隊（ラポール）」の活動を積極的に推進している。 カヌー部については、平成 29 年度の 5 月の県大会において 7 種目で優勝し、男女ともに総合優勝を果たし、2、3 年生の部員全員がインターハイ（全国大会）に出場している。 大阪府や愛媛県等に学校案内を送付する等の取組を通して、生徒確保に努めている。 入学者数（定員 40 人）は、平成 27 年度 22 人、平成 28 年度 11 人、平成 29 年度 9 人である。 	<p>（学校の存続）</p> <p>○中村高校西土佐分校は、交通の便が悪く経済的にも高校進学が難しかった西土佐地区の生徒、保護者たちに大きな希望の光を与えた。近年は交通の便もよく、真面目で素直な生徒達はそれぞれに高い学力を獲得する者も多く出てきて、志高く幅広い選択肢の中で西土佐分校以外の学校への進学者も増え、生徒数そのものの減少と相まって、入学者数は減少傾向にあり、存続の検討を要する学校になっている。</p> <p>（振興策）</p> <p>○最近のラポールというボランティアサークルによる自主的主体的な地域貢献やカヌー部の全国レベルの活躍等により、分校の生徒の地域での存在感は価値あるものになり、なにより今なお、親元から安心して通学できる高等学校としての存在感は保護者、地域、私共が認めるところである。厳しい環境にある子供達への支援という基本方向からも、何らかの形を持って存続を継続してもらいたい。本市としては貴重な西土佐分校の存続のために、学生寮、住居を提供した他、毎年 130 万円の予算を講じて生徒の部活動やサークル活動、学生寮の助成等の継続的な支援をしている。</p> <p>また、平成 16 年 1 月より、行政と地域住民で構成する西土佐分校存続推進協議会を立ち上げ定期的に会合を開き、学校の現状と存続支援の在り方等について協議を続けている。</p> <p>○現在、西土佐の小学生の児童数は、各学年ともに 10 人台である。近隣や県外からの生徒確保に向けて取り組んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域との連携、交流活動、地域の特性を生かした取組を通じて、教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 少人数の利点を生かして、国公立大学進学から就職まで、生徒の多様な進路希望の実現を支援する。 カヌー部の活動やラポールの活動を活発にし、生徒一人一人に役割ややりがいを持たせる取組を推進するとともに、さらなる活性化について検討が必要。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[中山間地域にある学校に共通する方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTの活用により難関校への進学希望にも対応できる学習環境、社会性の育成の確保が必要。 市町村との連携により地元中学生からの進学率を更に向上させることが必要。 今後、更に魅力ある振興策を検討し、特色ある学校づくりを行い、域外の生徒を確保することが必要。 </div>

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
15	宿毛工業高校	<ul style="list-style-type: none"> ・幡多地域の工業教育の拠点校として、これまでの教育活動を発展させ、ものづくりや資格取得への取組、地域と連携した取組等を通じて教育活動の充実を図り、就職から大学進学までの幅広い進路を保障することで、生徒数の確保に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・四国内ではまだ取り組んでいない若年者ものづくり競技大会（フライス盤）等の内容・分野にチャレンジできるよう、西南工業団地の企業との連携（授業、工場見学、企業説明会等）を促進している。また、地元企業へのインターンシップ（2年生で5日間）も実施している。 ・若年者ものづくり競技大会（フライス盤）、高校生全国ものづくり大会（自動車整備）で全国大会に出場。 ・一人2資格取得を目標に取り組んでいる。（平成29年度現在一人1.6資格） ・小中学校等への出前授業実施やものづくりで地元への還元をしている。 ・宿毛マラソンや国道一斉清掃等、地域や行政と連携したボランティア活動が定着している。 ・進路については、過去3年間の平均は、進学が4割、就職が6割（内4割が県内、6割が県外）であり、幡多地域への就職は、就職全体の10～15%である。 ・入学者数（4科合計定員160人）は、平成27年度122人、平成28年度131人、平成29年度120人である。 ・電気科の入学者数（定員40人）は、平成27年度19人、平成28年度は19人、平成29年度は16人である。 	<p>（学科・教育内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宿毛工業高校は、テクノロジーとイノベーションの進化と創造をもたらす意味でも大変重要な存在感を示している。宿毛工業高校を幡多工業高校と名称変更することも一考頂きたい。 ○宿毛工業高校も優秀な人材を輩出している。 ○コマツには宿毛工業高校から毎年多くの生徒を雇用している。宿毛工業高校から卒業した生徒は真面目で優秀であり、将来の幹部候補である。 ○宿毛工業高校が地域に果たしている役割は非常に大きい。若い柔軟な発想と行動力は色々なイベントでの協力だけでなく、市全体の町づくりに絡めてもぜひとも必要なものだと信じているので、再編協議についてもそのことを十分考慮したうえで検討いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幡多地域の工業教育の拠点校として、機械・電気・土木・建築・情報技術を備えた高校として、ものづくりや資格取得への取組等、これまでの教育活動を発展させる。 ・インターンシップ、企業見学、デュアルシステム等により地元・県内企業との連携を促進し、県内企業と産業を理解した工業技術者を育成する。 ・小中学校や地域と連携した取組を通して、学びと社会をつなげる教育活動の充実を図る。 ・進路希望に応じた弾力的な教育課程の編成により、就職から大学進学までの幅広い進路を保障する。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
16	宿毛高校	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な進路希望に対応できるカリキュラムを生かして、個別指導の充実を図ることで、進路実現を可能にする取組等の充実を図り、生徒数の確保に努める。 中高連携等を活用した部活動の活性化を行い、生徒が心身ともに成長できる学校を目指す。 南海トラフ地震による津波への対応のため、適地への移転の可能性も含め、将来の学校の在り方を検討していく。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定時制については、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合学科の本来の趣旨のもと、幅広い分野にわたる選択講座を設定して、生徒の多様な興味関心に応えている。年2回の公開授業では教員相互が参観して改善ポイント等を指摘し合う魅力ある授業づくりに取り組んでいる。また、国公立大学への進学対応のステップアップコースを設定して、進学希望の実現に取り組んでいる。 国公立大学の合格者は、H26年度5人、H27年度4人、H28年度2人である。 相撲、陸上、サッカー、バドミントン等は小中学生との合同練習を実施。レスリングについては、現在部員はいないが、施設を開放し、児童・生徒が練習に参加しており、今後は、部活動復活を目指している。 入学者数（H27・28年度は定員160人、H29年度から120人）は、平成27年度106人、平成28年度は89人、平成29年度は82人である。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により3年間で卒業できる制度（三修制）を導入している。 計画的な進路指導を展開し、企業見学、講演、基礎学力の定着、個別指導の徹底をはかっており、生徒の状態も落ち着き、学力もこの3年で向上している。 在籍生徒数（在籍定員160人）は、H27年度38人、H28年度32人、H29年度25人である。 	<p>（学科・教育内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○宿毛高校は、幡多の地理的な条件や生徒の分布状況、通学の利便性からも、郡内で多様な選択ができるという観点からも生徒数、入学者数等を勘案しながらも是非、存続を望む。 ○宿毛高校の総合学科の意味合いやメリットが十分に市民に浸透していない。総合学科になったために、宿毛高校のレベルが落ちたのではないかという意見を聞く。総合学科には総合学科の目的があって、普通科にはない主体的に教科を選択し自分のキャリアを探していく、自分のビジョンに向かっていくというメリットが有るわけだが、現実問題として宿毛高校を希望する生徒が減ってきているというのは、そのあたりが十分に伝わっていないのではないか。進学するのであれば、県立中村中学校、中村高校に行くべきだと、家庭的にゆとりがあれば高知市内に行くと言った状況がある。宿毛高校も優秀な人材を輩出している。進学というと保護者はどうしても中村高校が選択肢に入るので、総合学科の意義や見直しの議論をいただきたい。 ○宿毛高校が地域に果たしている役割は非常に大きい。若い柔軟な発想と行動力は色々なイベントでの協力だけでなく、市全体の町づくりに絡めてもぜひとも必要なものだと思っているので、再編協議についてもそのことを十分考慮したうえで検討いただきたい。 ○宿毛高校の総合学科を今後も進めていくのであれば、総合学科の意義等について一緒になって考えていく必要がある。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの夢の実現を目指し、個性を尊重しつつ社会人としての真の学力・生きる力を持った健全な人材の育成に努める。 普通科教科だけでなく、多様な専門分野を学べるという総合学科の本来の趣旨を地域に伝えるとともに、その実現に努める。 個々の進路目的に対応する教育課程を再編成し、多様な進路の実現を図るとともに自ら考え、行動する生徒を育て、個性の伸長に努め、地域社会及び国際社会に貢献できる人材の育成を目指す。 総合学科の内容、特にメリットを保護者や中学校に理解してもらうように広報を練り直し実施していく。 津波による大きな被害が想定される学校であることから、地域と連携しながら、避難訓練等を実施するとともに、BCP（事業継続計画）の策定を着実に実施する。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、多様なニーズを持つ生徒に応じた支援を行い、生活規律の確立や社会性の育成を図り、進路希望の実現を目指す。多様な生徒の居場所づくりや受け皿として、定時制の役割を果たす。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
17	清水高校	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度より実施している清水中学校との連携型中高一貫教育を推進する。地域との連携や多様なニーズをもつ生徒への支援体制を強化する取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 過疎化が著しく、近隣に他の高校がない学校であり、特例として 1 学年 1 学級 (20 人以上) を最低規模として維持する。 南海トラフ地震による津波への対応のため、高台への移転を検討する。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定時制については、働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度から清水中学校との連携型中高一貫教育を推進しており、連携授業による教員の相互乗り入れや、中高合同の部活動交流、防災教育、キャリア教育講演会、弁論大会等を実施している。 教務部を中心に「学力向上支援プロジェクト」を実施し、家庭学習時間の確保に努めている。特に基礎学力の定着については、習熟度別学習や加力補習、インターネット学習教材の活用等を通じた取組を実施している。 「未来プロジェクト」と題して、様々な場面を活用して、社会性や自己肯定感の育成、ポートフォリオによる進路指導を行っている。 清水中学校 1 校から全員が入学してきており、入学者数 (定員 80 人) は、平成 27 年度 51 人、平成 28 年度 47 人、平成 29 年度 47 人である。(清水中学校からの進学率: H27 年度 44%、H28 年度 40.5%、H29 年度 46.1%) 土佐清水市全体として、公共機関や教育機関の高台移転を推進しており、清水高校の高台移転について、関係部署と平成 28 年度から定期的に協議を行っている。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により 3 年間で卒業できる制度 (三修制) を導入している。 個別支援を徹底し、外部機関とも連携しながら、生活規律の確立や社会性育成の取組を推進している。 在籍生徒数 (在籍定員 160 人) は、H27 年度 19 人、H28 年度 21 人、H29 年度 19 人である。 	<p>【全日制】 (学校の存続)</p> <ul style="list-style-type: none"> 清水高校は、幡多の地理的な条件や生徒の分布状況、通学の利便性からも、また、普通高校を自由に選択できるという観点からも生徒数、入学者数等を勘案しながらも是非、存続を望む。 (南海トラフ地震対策) 集中的に高台に公共施設を移転している。いよいよ清水高校である。前期の再編振興計画の中には、高台への移転を検討するという文言が入っているので、後期の計画には可及的速やかに実現できるように協力願いたい。 高台には住宅が増えて、交通の便も充実してきている。清水高校については、めばしい土地があり具体的に県教育委員会に提案している。コンパクトな校舎で清水中学校とより連携して、使えるものは一緒に共有しながら中高一貫をさらに強めていきたい。小さくても素晴らしい高校を目指したい。 (学科・教育内容) 清水高校は少子高齢化で厳しい状況である。私たちの時代は 6 クラス有り、漁業科があった。これまで素晴らしい人を送り出してきた。この漁業科には大月町、宿毛市、旧佐賀町からも進学してくるという特色ある学科であった。 清水高校への進学率を上げるためには、特色ある学校づくりが大切である。ジョン万次郎の縁でアメリカとの交流もあるので国際交流に特化したコースなり特色ある学校づくりが大切である。 清水高校への進学率を上げるためには、2 年次からの大学進学コースと専門学校・就職コースや、関西学院の指定校の話、市の奨学金のことを知っていたが、4 年生大学を目指す子供達への強化を市民にアピールすることが必要と思う。 連携型中高一貫により、子供達がいろいろな交流ができてきた。中学生も高校生も発表する場を通じて態度や内容も洗練されてきた。 土佐清水市では英語検定受験料の半額を助成している。 アメリカの 2 つの都市と姉妹都市の連携をしている。清水高校からは短期留学制度で、土佐清水市姉妹都市友好協会から助成をし、これまで 189 名の生徒が留学の経験をしている。 <p>【定時制】 (学校の存続)</p> <ul style="list-style-type: none"> 定時制は、生徒が少ないが、中学生の時に不登校になる等、いろいろな事情で精神的にも全日制に通うことができない子供の受け皿として、土佐清水市になくてはならない存在であり、その役割は大きい。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 清水中学校との連携型中高一貫教育による連携授業の推進や、ジョン万次郎などの地域に関連した教育活動を推進することで、学力の向上や社会性の育成を図り、地域に貢献できる人材を育成する。 短期海外留学の実施や、英語検定の取得拡大などにより、語学の教育活動を強化する。 南海トラフ地震による津波被害から確実に生徒を守るために速やかに高台へ移転する。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、多様なニーズを持つ生徒に応じた支援を行い、生活規律の確立や社会性の育成を図り、進路希望の実現を目指す。多様な生徒の居場所づくりや受け皿として、定時制の役割を果たす。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[中山間地域にある学校に共通する方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT の活用により難関校への進学希望にも対応できる学習環境、社会性の育成の確保が必要。 市町村との連携により地元中学生からの進学率を更に向上させることが必要。 今後、更に魅力ある振興策を検討し、特色ある学校づくりを行い、域外の生徒を確保することが必要。 </div>

窪川高校と四万十高校の入学に関する状況

1 入学者数

※窪川高校：入学定員（80人）、四万十高校：入学定員（80人）

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
窪川高校	55	41	31	52	34	41	46	27	38	34	41	26
四万十高校	42	49	48	30	45	36	22	23	22	20	20	13
計	97	90	79	82	79	77	68	50	60	54	61	39

2 今後の入学者数の推計

※窪川高校：入学定員（80人）、四万十高校：入学定員（80人）

年度	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
窪川高校	27	35	30	26	33	24	27	27	30
四万十高校	13	20	16	13	11	12	8	7	11
計	40	55	46	39	34	36	35	34	41

清水高校の入学に関する状況

1 入学者数

※入学定員（80人）

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
清水高校	82	76	84	76	81	75	55	74	42	51	47	47

2 今後の入学者数の推計

※入学定員（80人）

年度	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
清水高校	38	37	33	33	41	31	30	26	22

再編振興計画での地域（現・旧市町村）別中学校卒業者数の推移（H30.3～H38.3は推計）

参考資料3

地域	高校	現市町村名	旧市町村名	H. 19. 3	H. 20. 3	H. 21. 3	H. 22. 3	H. 23. 3	H. 24. 3	H. 25. 3	H. 26. 3	H. 27. 3	H. 28. 3	H. 29. 3	増減	H. 30. 3	H. 31. 3	H. 32. 3	H. 33. 3	H. 34. 3	H. 35. 3	H. 36. 3	H. 37. 3	H. 38. 3	
中部地域 ②	高知 伊野商	高知市	春野町	120	101	116	118	115	98	115	117	96	120	120	▲15	105	103	106	102	85	91	72	78	73	
			鏡村	18	14	14	11	6	12	15	7	8	6	6	11	▲5	6	9	5	6	8	15	11	6	8
			土佐山村	13	9	7	10	7	8	8	2	10	7	7	13	5	18	20	14	29	29	32	53	58	60
		高知市	2,201	2,195	2,235	2,166	2,217	2,125	2,085	2,007	2,089	2,040	2,093	2,093	▲115	1,978	1,951	1,907	1,838	1,871	1,775	1,818	1,671	1,663	
		いの町	伊野町	228	239	189	203	176	198	146	141	133	144	150	▲29	121	124	116	123	108	124	104	83	102	
			計	2,580	2,558	2,561	2,508	2,521	2,441	2,369	2,274	2,336	2,317	2,387	▲159	2,228	2,207	2,148	2,098	2,101	2,037	2,058	1,896	1,906	
	高岡・海洋	土佐市	土佐市	195	197	222	227	203	205	217	210	216	200	219	▲20	199	144	171	159	164	163	171	132	149	
			国立	157	157	154	152	159	154	157	158	138	132	133	▲6	139	134	136	120	122	123	123	119	122	
			中部地域②計	2,932	2,912	2,937	2,887	2,883	2,800	2,743	2,642	2,690	2,649	2,739	▲173	2,566	2,485	2,455	2,377	2,387	2,323	2,352	2,147	2,177	
			H29との増減	283	173	198	148	144	61	4	▲97	▲49	▲90	0	0	▲173	▲254	▲284	▲362	▲352	▲416	▲387	▲592	▲562	
高 吾 地 域	佐川	日高(加茂)	日高(加茂)	64	47	61	52	44	51	50	49	61	40	50	▲9	41	45	40	39	26	38	37	34	38	
		佐川町	佐川町	141	153	108	125	109	104	88	110	98	103	109	▲11	98	112	94	88	108	76	88	86	88	
		越知町	越知町	49	45	71	51	47	47	39	44	44	51	33	10	43	40	34	31	38	36	30	29	37	
		仁淀川町	池川町	13	20	13	6	10	11	10	22	25	17	14	6	20	11	5	12	9	6	11	9	13	
			吾川村	23	14	21	17	13	23	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
			仁淀村	22	18	18	18	10	17	23	20	18	21	20	20	▲2	18	11	16	14	11	16	9	14	8
			計	312	297	292	269	233	253	220	245	246	232	226	▲6	220	219	189	184	192	172	175	172	184	
	須崎	須崎市	須崎市	218	204	186	201	176	168	202	189	167	181	134	12	146	128	125	104	135	126	137	103	117	
		津野町	葉山村	30	43	47	46	32	32	23	38	39	27	25	0	25	36	27	25	26	24	32	40	28	
		中土佐町	中土佐町	63	56	55	61	58	65	66	48	49	41	40	8	48	38	36	36	38	24	32	32	41	
			大野見村	12	19	15	11	15	12	5	16	11	6	9	▲3	6	8	3	5	11	2	8	6	6	
			計	323	322	303	319	281	277	296	291	266	255	208	17	225	210	191	170	210	176	209	181	192	
	梶原	梶原町	梶原町	48	30	34	31	36	38	39	22	29	22	27	▲1	26	23	23	21	25	25	21	21	27	
		津野町	東津野村	28	26	27	15	21	24	25	20	20	18	25	▲12	13	17	15	16	13	21	14	10	11	
			計	76	56	61	46	57	62	64	42	49	40	52	▲13	39	40	38	37	38	46	35	31	38	
窪川	四万十町	窪川町	105	113	129	99	102	121	118	112	95	100	101	▲23	78	102	87	73	98	69	77	78	85		
四万十	四万十町	大正町	37	39	26	41	33	30	20	32	26	32	23	▲4	19	28	26	15	12	17	9	8	14		
		十和村	36	21	25	31	20	17	23	18	19	11	13	1	14	20	10	18	13	9	12	11	10		
		計	73	60	51	72	53	47	43	50	45	43	36	▲3	33	48	36	33	25	26	21	19	24		
		高吾地域計	889	848	836	805	726	760	741	740	701	670	623	▲28	595	619	541	497	563	489	517	481	523		
		H29との増減	266	225	213	182	103	137	118	117	78	47	0	0	▲28	▲4	▲82	▲126	▲60	▲134	▲106	▲142	▲100		
幡 多 地 域	中幡 農大	四万十市	中村市	312	340	347	356	343	320	300	331	319	313	320	▲15	305	275	281	287	254	255	279	240	259	
		黒潮町	佐賀町	38	26	38	42	29	24	36	29	26	24	32	▲9	23	26	12	22	14	13	14	19	15	
			大方町	84	96	73	65	70	71	52	75	53	62	47	22	69	55	45	50	54	41	55	46	38	
			計	434	462	458	463	442	415	388	435	398	399	399	▲2	397	356	338	359	322	309	348	305	312	
	西土佐	四万十市	西土佐村	32	31	32	33	23	26	27	27	36	25	28	▲2	26	21	20	10	17	17	14	11	14	
		宿毛市	宿毛市	205	224	230	231	237	220	206	187	175	174	167	▲26	141	173	137	128	148	134	157	145	145	
		三原村	三原村	17	14	17	15	11	18	9	10	8	12	12	▲1	11	6	13	6	7	7	0	5	5	
		大月町	大月町	51	56	67	50	60	56	50	42	41	52	30	8	38	43	24	39	31	25	27	24	20	
			計	273	294	314	296	308	294	265	239	224	238	209	▲19	190	222	174	173	186	166	184	174	170	
	清水	土佐清水市	土佐清水市	152	144	149	138	130	130	137	105	119	116	103	▲14	89	87	77	78	95	73	69	60	52	
		幡多地域計	891	931	953	930	903	865	817	806	777	778	739	▲37	702	686	609	620	620	565	615	550	548		
		H29との増減	152	192	214	191	164	126	78	67	38	39	0	0	▲37	▲53	▲130	▲119	▲119	▲174	▲124	▲189	▲191		

平成27年度以降の入学数又は在籍者数の実態（学校別一覧）

参考資料4

白抜き：最低規模を下回っている 定員に対して40人以上下回っている 定員の半分以下

学校名	学科(科)名	入学定員	最低規模(該当に●)			備考
			H27 入学者	H28 入学者	H29 入学者	
室戸	総合	80	63	50	42	
安芸	普通	120 (60)	83	83	95	●
安芸桜ヶ丘	工業 (環建) [土木	20	9	6	9	
	工業 (環工) [建築	20	6	4	11	
	商業 (情ビ)	40	21	14	14	
城山	普通	80	61	40	46	●
山田	普通	160	110	121	128	●
嶺北	商業 (商業)	40	29	26	30	
	普通	80	26	22	29	●
高知農業	農業 (農総)	40	40	41	40	
	農業 (畜総)	40	32	28	36	
	農業 (森総)	40	22	24	21	●
	農業 (環土)	40	27	31	35	
	農業 (食ビ)	40	35	37	33	
	農業 (生総)	40	40	32	40	
高知東工業	工業 (機械)	40	31	40	35	
	工業 (機械シ)	40	28	30	24	●
	工業 (電子)	40	26	24	27	
	工業 (電機)	40	24	30	29	
岡豊	普通	240	240	240	239	
	普通 (芸術コース)	40	23	25	24	●
	普通 (体育コース)	40	33	40	40	
高知東	総合	200	200	198	200	●
	看護 (看護)	30	24	24	30	
高知南	普通	200 (100)	169	194	200	
	国際 (国際)	40 (20)	28	35	36	
高知工業	工業 (機械)	40	40	40	40	
	工業 (電気)	40	35	34	35	
	工業 (情技)	40	37	34	38	
	工業 (工化)	40	35	40	40	●
	工業 (土木)	40	40	40	40	
	工業 (建築)	40	40	40	40	
	工業 (総テ)	40	36	37	39	
高知追手前	普通	280	265	279	252	●
	吾北 普通	40	23	23	19	●
高知丸の内	普通	140	141	141	140	
	チャレンジ A	10	9	7	10	●
高知小津	音楽 (音楽)	30	20	21	13	
	普通	240	226	241	240	●
高知西	理数 (理数)	40	24	29	40	
	普通	240	236	240	240	
伊野商業	外国語 (英語)	40	40	41	40	
	商業 (キャリア)	160	145	139	147	●
春野	総合	160	136	148	137	●
	普通	80	42	37	40	●
高岡	普通	80	42	37	40	●
	水産 (海洋)	80	51	58	39	●
須崎工業	船舶職員養成課程 [10]	[10]	[4]	[4]	[2]	
	工業 (機械系) [機械	20	31	40	12	
	工業 (機械系) [造船	20	25	17	13	
	工業 (電情系) [電気	20	22	19	9	
	工業 (電情系) [電情	20			10	
	工業 (シ工系) [機制	20	18	15	2	
須崎	工業 (シ工系) [住環	20			18	
	普通	120	64	97	92	●
佐川	普通	80	52	47	35	●
窪川	普通	80	34	41	26	●
橋原	普通	80	56	32	43	●
四万十	普通	40	13	13	9	●
	普通 (自環コース)	40	7	7	4	●
大方	普通	80	38	32	32	●

(注1) 安芸、高知南、中村の()内の数字は、併設中学からの最大進学者の生徒数。
 (注2) 高知海洋高校船舶職員養成課程の[]は内数
 (注3) 嶺北、橋原、四万十の合格者数は、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。

学校名	学科(科)名	入学定員	最低規模(該当に●)			備考
			H27 入学者	H28 入学者	H29 入学者	
幡多農業	農業 (園シス)	40	24	38	40	
	農業 (アグリ)	40	27	28	30	●
	農業 (グリーン)	40	24	22	17	
	農業 (コーディネート)	40	22	34	31	
中村	普通	200 (70)	184	161	200	●
	西土佐 普通	40	22	11	9	●
宿毛工業	工業 (機械) [機械	20	17	14	17	
	工業 (機械) [自転車	20	20	18	18	
	工業 (建設) [土木	20	19	20	19	●
	工業 (建設) [建築	20	20	20	17	
	工業 (電気)	40	19	19	16	
宿毛	工業 (情技)	40	27	40	33	
	総合	120	106	89	82	●
清水	普通	80	51	47	47	●
県立計		5090	4004	4032	4007	

(注4) 清水の合格者数は、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	最低規模(該当に●)			備考
			H27 入学者	H28 入学者	H29 入学者	
中芸	普通(昼)	40	23	26	11	●
高知北	普通(昼)	80	80	74	80	●
合計		120 [0]	103	100	91	

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	最低規模(該当に●)			備考
			H27 在籍者	H28 在籍者	H29 在籍者	
中芸	普通(夜)	40 [4]	8	17	18	●
高知北	普通(夜)	40 [4]	134	124	101	●
	看護(夜) (衛看) (技能連携)	40			4	
合計		120 [8]	142	141	123	

(注1) 成人の[]は内数

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	最低規模(該当に●)			備考
			H27 在籍者	H28 在籍者	H29 在籍者	
室戸	普通	40 [4]	11	11	17	●
山田	普通	40 [4]	38	32	29	●
高知東工業	工業 (機械)	40 [4]	33	40	34	●
高知工業	工業 (機械)	40 [20]				
	工業 (電気)	40 [20]	87	81	70	●
	工業 (土木)	40 [20]				
	工業 (建築)	40 [20]				
高岡	普通	40 [8]	27	42	44	●
須崎	普通	40 [4]	25	23	17	●
佐川	普通	40 [8]	25	21	22	●
大方	普通	40 [4]	28	26	21	●
宿毛	普通	40 [4]	38	32	25	●
清水	普通	40 [4]	19	21	19	●
県立計		520 [124]	331	329	298	

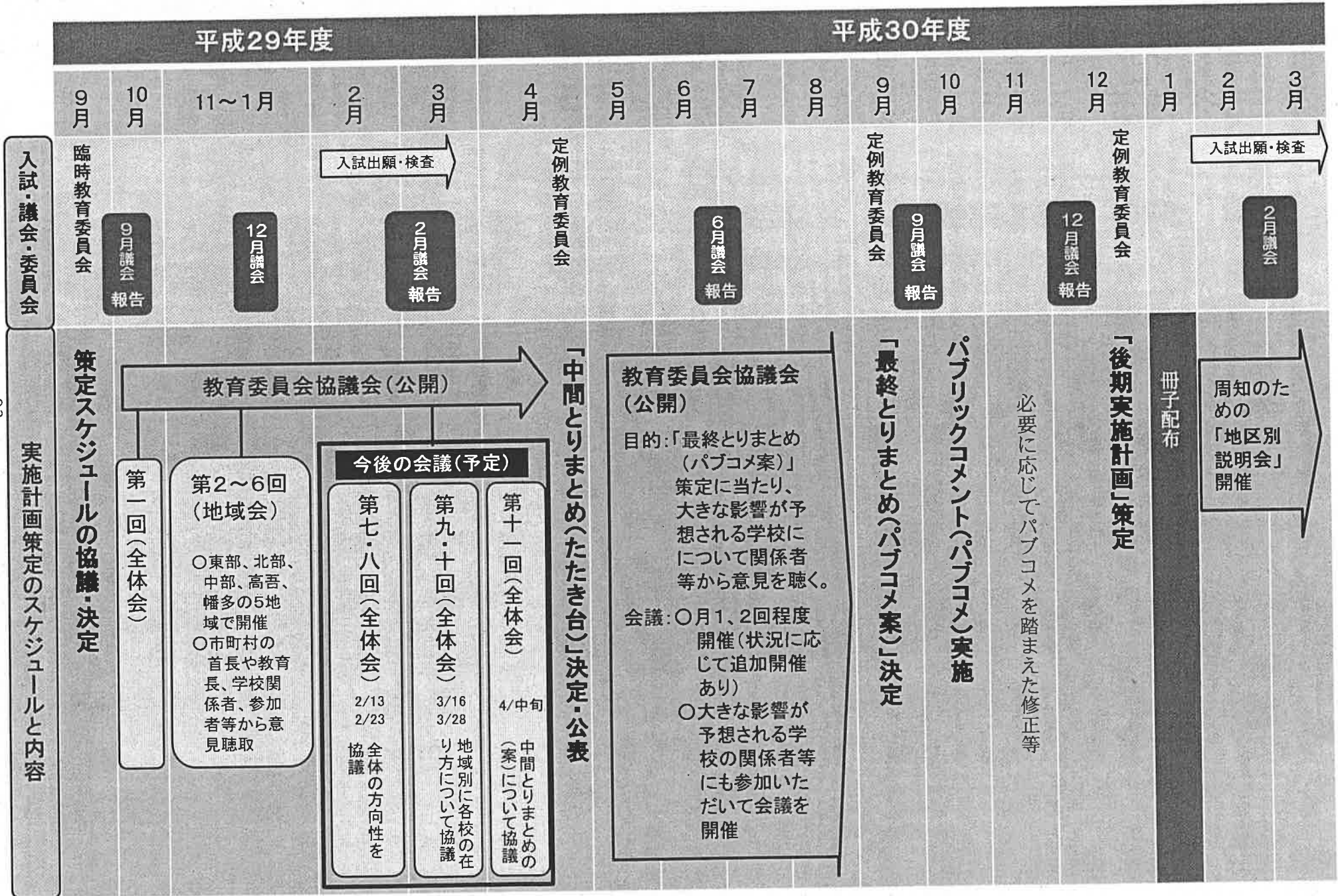
(注1) 成人の[]は内数

学校名	学科(科)名	最低規模(該当に●)			備考
		H27 在籍者	H28 在籍者	H29 在籍者	
高知北		427	412	438	
大方		78	78	64	
合計		505	490	502	

津波浸水域の県立高等学校一覧

	市町村名	学校名	10mメッシュ 最大クラス(L2)の津波 堤防なしの場合 (H24.12.26南海地震対策課配布データ)		校舎 構造・階数	津波避難場所				備考 (避難所指定の有無など) ※避難所については、各市町村が指定し ており、想定は自然災害全般である。	
			浸水深 (m)	30cm津波 到達時間(分)		避難場所	標高 (m)	広さ (㎡)	避難距離 (m)		避難時間 (分)
1	安芸市	安芸	5m	57分	非木造 4階建	北舎屋上	23.5	840	—	—	避難所指定(無) 避難訓練(年3回実施) 南舎改築(H28.2完成)
2		安芸桜ヶ丘	5m	95分	非木造 4階建	安芸市総合運動場(補助グラウンド)	20	13000	200	10	避難所指定(無) 避難訓練(年3回実施)
3	香南市	城山	4m	39分	非木造 4階建	南舎屋上(地域住民は北舎屋上)	26	650	—	—	避難所指定(有) 避難訓練(年3回実施) 地域や中学校とも合同開催
4	高知市	高知東	2m	190分	非木造 4階建	校舎3・4階	9	1290	—	—	避難所指定(有) 避難訓練(年3回)
5		高知南	3m	36分	非木造 4階建	校舎4階及び屋上	12.5	2320	—	—	前期実施計画で統合
6		高知工業	3m	47分	非木造 4階建	校舎3・4階及び屋上	14	3110	—	—	避難所指定(有) 避難訓練(年3回実施) 難山への避難は被災時は危険
7		高知追手前	2m	134分	非木造 4階建	高知城・新館4階等状況に応じて ※右データは高知城	44.4	2500	1000	15	避難所指定(有) 避難訓練(年3回実施)
8		高知丸の内	1m	191分	非木造 4階建	北舎2・3・4階	6.5	945	—	—	避難所指定(有) 避難訓練(年3回実施)
9		高知小津	1m	243分	非木造 6階建	校舎の4階以上の教室と6階の食堂(本館東)	15.1	1810	—	—	避難所指定(有) 避難訓練(年3回実施)
10	土佐市	高知海洋	8m	25分	非木造 5階建	近くの高台	40	400	500	8	避難所指定(有) 避難訓練(年3回実施) 1年生は4月にも実施 地域の避難場所指定(有) ただし、高校としてはより安全で広い避難 場所に避難
11	須崎市	須崎	7m	28分	非木造 4階建	学校の裏山にある避難道を上って、山頂にある須崎市斎場	83	—	300	15	前期実施計画で統合
12	宿毛市	宿毛	7m	35分	非木造 4階建	つつじ公園	70	1000	1000	15	避難所指定(有) 避難訓練(年3回実施) 地域の避難場所指定(有) ただし、高校としてはより安全で広い避難 場所に避難
13	土佐清水市	清水	12m	11分	非木造 3階建	学校裏山または近くの高台 ※右データは高台	43	50	125	10	避難所指定(無) 避難訓練(年3回実施) 高台移転について協議中

県立高等学校再編振興計画 後期実施計画(H31～H35年度)策定スケジュール



平成30年度 B日程等合格者等の状況(学校別)

No. 1 全日制

(平成30年 3月25日)

学校名	学科(科)名	入学定員	A日程等合格者数	B日程定員	B日程受検者数	合格者数	合格者数計
室戸	総合	80	19	61	2	2	21
安芸	普通	120 (57)	51	6	0	0	51
安芸桜ヶ丘	工業(環建)	20	3	17	0	0	3
	工業(土木建築)	20	8	12	0	0	8
	商業(情ビ)	40	20	20	0	0	20
城山	普通	80	14	66	19	15	29
山田	普通	160	71	89	19	12	83
	商業(商業)	40	21	19	2	2	23
嶺北	普通	80	16	64	1	1	17
高知農業	農業(農総)	40	40	なし	/	/	40
	農業(畜総)	40	37	3	0	0	37
	農業(森総)	40	15	25	4	2	17
	農業(環土)	40	28	12	3	1	29
	農業(食ビ)	40	40	なし	/	/	40
	農業(生総)	40	40	なし	/	/	40
高知東工業	工業(機械)	40	31	9	2	0	31
	工業(機械シ)	40	18	22	6	4	22
	工業(電子)	40	19	21	3	3	22
	工業(電機)	40	28	12	1	1	29
岡豊	普通	240	240	なし	/	/	240
	普通(芸術コース)	40	24	16	2	1	25
	普通(体育コース)	40	40	なし	/	/	40
高知東	総合	200	200	なし	/	/	200
	看護(看護)	30	30	なし	/	/	30
高知南	普通	200 (116)	90	26	10	10	100
	国際(国際)	40 (27)	15	12	1	1	16
高知工業	工業(機械)	40	34	6	1	1	35
	工業(電気)	40	35	5	1	1	36
	工業(情技)	40	35	5	4	4	39
	工業(工化)	40	37	3	2	2	39
	工業(土木)	40	40	なし	/	/	40
	工業(建築)	40	40	なし	/	/	40
	工業(総デ)	40	35	5	4	4	39
高知追手前	普通	280	281	なし	/	/	281
	普通	40	6	34	0	0	6
高知丸の内	普通	140	140	なし	/	/	140
	音楽(音楽)	30	20	10	1	1	21
高知小津	普通	240	238	2	3	1	239
	理数(理数)	40	25	15	1	1	26
高知西	普通	240	240	なし	/	/	240
	外国語(英語)	40	40	なし	/	/	40
伊野商業	商業(キャリア)	160	100	60	25	20	120
春野	総合	160	113	47	11	9	122
高岡	普通	80	19	61	14	12	31
高知海洋	水産(海洋)	80	27	53	14	9	36
	船舶職員養成課程	[10]	[3]	[7]	[0]	[0]	[3]
須崎工業	工業(機械系)	20	20	なし	/	/	20
	造船	20	17	3	0	0	17
	工業(電情系)	20	9	11	0	0	9
	電情	20	14	6	1	1	15
	工業(シ工系)	20	17	3	0	0	17
	住環	20	20	なし	/	/	20
須崎	普通	120	64	56	11	11	75
佐川	普通	80	38	42	3	1	39
窪川	普通	80	22	58	4	3	25
構原	普通	80	39	41	3	2	41
四万十	普通	40	15	25	1	0	15
	普通(自環コース)	40	3	37	0	0	3

(注1) 安芸、高知南、中村の()内の数字は、併設中学からの進学者数を除いた募集定員を示したものである。
 (注2) 高知海洋高校船舶職員養成課程の[]は内数
 (注3) 嶺北、構原、四万十、清水のA日程等合格者数は、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。
 (注4) チャレンジAは、A日程の日程に合わせて実施

No. 2 全日制

学校名	学科(科)名	入学定員	A日程等合格者数	B日程定員	B日程受検者数	合格者数	合格者数計
大方	普通	80	23	57	3	2	25
幡多農業	農業(園シ)	40	36	4	0	0	36
	農業(アグリ)	40	26	14	0	0	26
	農業(グリーン)	40	23	17	1	1	24
	農業(コーデネート)	40	40	なし	/	/	40
中村	普通	200 (132)	90	42	1	0	90
	西土佐 普通	40	9	31	1	1	10
宿毛工業	工業(機械)	20	12	8	0	0	12
	工業(自転車)	20	14	6	0	0	14
	工業(建設)	20	20	なし	/	/	20
	工業(土木建築)	20	20	なし	/	/	20
	工業(電気)	40	16	24	0	0	16
	工業(情技)	40	39	1	0	0	39
宿毛	総合	120	79	41	4	2	81
清水	普通	80	29	51	7	5	34
	県立計	5050	3427	1396	196	149	3576

高知商業	商業(総合マ)	140	140	なし	/	/	140
	商業(社会マ)	70	70	なし	/	/	70
	商業(情報マ)	35	35	なし	/	/	35
	商業(スポマ)	35	35	なし	/	/	35
	市立計	280	280	なし	/	/	280

合計	5330	3707	1396	196	149	3856
----	------	------	------	-----	-----	------

多部制単位制

学校名	学科(科)名	入学定員	A日程等合格者数	B日程定員	B日程受検者数	合格者数	合格者数計
		[成人]		[成人]	[成人]	[成人]	[成人]
中芸	普通(昼)	40	16	24	5	3	19
	普通(夜)	40 [4]		40 [4]	7 [0]	5 [0]	5 [0]
高知北	普通(昼)	80	76	4	3	3	79
	普通(夜)	40 [4]		40 [4]	14 [2]	13 [2]	13 [2]
	合計	200 [8]	92	108 [8]	29 [2]	24 [2]	116 [2]

(注1) 成人の[]は内数

定時制

学校名	学科(科)名	入学定員	A日程等合格者数	B日程定員	B日程受検者数	合格者数	合格者数計
		[成人]		[成人]	[成人]	[成人]	[成人]
室戸	普通	40 [4]		40 [4]	2 [0]	2 [0]	2 [0]
山田	普通	40 [4]		40 [4]	9 [0]	4 [0]	4 [0]
高知東工業	工業(機械)	40 [4]		40 [4]	6 [0]	3 [0]	3 [0]
高知工業	工業(機械)	40 [20]		40 [20]	4 [0]	2 [0]	2 [0]
	工業(電気)	40 [20]		40 [20]	1 [1]	1 [1]	1 [1]
	工業(土木)	40 [20]		40 [20]	2 [0]	1 [0]	1 [0]
	工業(建築)	40 [20]		40 [20]	3 [1]	2 [1]	2 [1]
高岡	普通	40 [8]		40 [8]	3 [0]	3 [0]	3 [0]
須崎	普通	40 [4]		40 [4]	2 [0]	2 [0]	2 [0]
佐川	普通	40 [8]		40 [8]	3 [0]	1 [0]	1 [0]
大方	普通	40 [4]		40 [4]	2 [0]	2 [0]	2 [0]
宿毛	普通	40 [4]		40 [4]	4 [0]	3 [0]	3 [0]
清水	普通	40 [4]		40 [4]	1 [1]	1 [1]	1 [1]
	県立計	520 [124]		520 [124]	42 [3]	27 [3]	27 [3]

高知商業	商業(商業)	40 [4]		40 [4]	8 [1]	7 [1]	7 [1]
------	--------	--------	--	--------	-------	-------	-------

合計	560 [128]		560 [128]	50 [4]	34 [4]	34 [4]
----	-----------	--	-----------	--------	--------	--------

(注1) 成人の[]は内数